

奥出雲町教育委員会委員に
谷尻圭子さんが再任



任期満了に伴い、5月25日付けで谷尻圭子さんが教育委員に再任されました。
任期は4年間です。よろしくお願いいたします。

教育長	塔村 俊介
教育長職務代理者	福田 充雄
委員	荒金 勇吉
委員	谷尻 圭子
委員	松原 律子

▲奥出雲町教育委員会の構成(敬称略)

子どもたちが武者行列を披露
戦国武将・三沢氏を偲ぶ山城祭



▲出陣式「三献の儀」

要害山三沢城跡保存会主催の山城祭が5月27日に要害山山頂で行われました。
甲冑をまとった子どもたちや地元有志らが麓から山頂を目指し、勇壮な武者行列を披露しました。山頂に到着すると、戦の出陣式を再現し、子どもたちの元気な掛け声が響き渡りました。
続いて山開き神事が執り行われ、安全と地域の発展を祈願しました。

アウトドアフェス
さくらおろち湖BOSAI(+)
が開催



▲燻製づくり体験の様子

5月19日、20日に、アウトドアフェスさくらおろち湖BOSAI(+)
がさくらおろち湖周辺を会場に開催されました。
このイベントは、アウトドアを切り口に防災意識の向上を図ることを目的にNPO法人さくらおろちの主催で行われました。
自転車競技施設ではエコストーブづくりなどの体験のほか、防災に関連した展示、飲食物の販売があり、連日家族連れで賑わいました。



多目的会議室
(コワーキングスペース)



キッチン・土間スペース



会議室



貸事務所シェアオフィス

起業・創業と交流の拠点
古民家オフィスみらいと奥出雲が開所

町はこれまで三沢地区の古民家の活用方法について、町民の皆様を交えたワークショップを行いながら検討を重ねてきました。平成29年度に町が古民家を購入し、起業・創業支援施設として整備を行い、5月16日に開所を迎えました。

古民家の1階には貸事務所5区画と多目的会議室、2階に会議室2部屋、土間付近にはキッチンや交流スペースを設けました。県産材を使用し、古民家の良さを生かしたオフィスに仕上げられています。

開所式では、勝田町長が「新たな人の流れと産業が生まれ、新たな未来につながることを期待します」とあいさつ。その後、テープカットを行い、集まった関係者と開所を祝いました。

オフィスの愛称は、公募により全国から222点の応募の中から厳選なる審査を経て、「みらいと奥出雲」に決定しました。「みらいと」は未来とライト(明かり)を組み合わせた造語で、起業・創業の支援により、本町産業振興の未来を明るく照らす、明るい未来を拓くという意味を込めています。

貸事務所には5月から3社と1団体が入居され、業務を開始されています。また、入居者以外の方でも多目的会議室やキッチンは1日540円(1人あたり)で、土間の交流スペースは無料で使用することができます。

みらいと奥出雲が新たな仕事づくりの場、新しいコミュニティづくりの場、住民等の交流の場として活力を生み出すことが期待されます。

問 商工観光課
5412504

日本農業遺産・世界農業遺産申請へ
たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業

奥出雲町農業遺産推進協議会が6月1日に開催され、「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」の日本農業遺産・世界農業遺産への認定を目指し、国に認定申請することが承認されました。

本町では、たたら製鉄の原料である砂鉄を採取した後、鉄穴流しの跡地は棚田に再生整備され、稲作を行ってきました。また、鉄の輸送や農耕用の役牛は和牛改良を重ね、系統を引き継ぐ肉用牛に転換し、牛糞等は堆肥にして稲作に利用してきました。たたら製鉄の燃料として輸伐してきた薪炭林はシイタケの原木供給林として循環利用してきた歴史があります。

世界的にみると鉱山跡地は荒廃しているのが一般的で、製鉄産業と農林業が結びついた循環型システムにより砂鉄採取跡地を荒廃させることなく、農地、水路やため池として土地利用を図った例は珍しく、また、農業によって今日まで自然環境が保たれ、多様な動植物や生態系を育むとともに、私たちの暮らしや文化、価値観及び社会組織にも息づいています。

この申請を行った後、書類審査や現地調査等を経て、来年2月頃に日本農業遺産認定の可否が決まる見通しです。また、世界農業遺産(GIAHS)への認定申請が承認されれば、同年4月以降に国連食糧農業機関(FAO)に申請し、現地調査等を経て認定決定されます。日本農業遺産に認定されると、中国地方初の認定地域となり、さらに世界農業遺産に認定されると農産物のブランド力強化や世界への情報発信によって農業や文化、環境を維持・継承する保全活動へとつながることが期待されます。



▲農業遺産認定申請の概要を説明する様子
奥出雲町の農業とたたら製鉄の関わりについて説明を行う